

平成29年度

学力向上を図るための全体計画 練馬区立八坂小学校 (様式1)

社会の要請 ○学習指導要領 ○東京都教育委員会教育目標 ○練馬区教育委員会教育目標など	本校の学校教育目標 ○よく考える子 ○心ゆたかな子 ○たくましい子	児童の実態 ○明るく素直な児童が多い。 ○表現する力・問題を発見する力がある。 ○自分で判断する力が育っていない。 ○語彙が不足し、文章読解力が育っていない。 ○特に算数においては学力の開きが大きい。
教職員の願い ○確かな学力と豊かな人間性の育成 ○学習スキルの定着	校長の学校経営方針 子供の夢をかりたて、希望を育てる学校 ○児童相互、児童と教職員、保護者・地域と教職員、教員相互の信頼に支えられた学校 ○児童理解に努め、学習意欲を高め、笑顔かがやく学校 ○運動に親しみ体力向上や健康・安全への関心・意欲を高める学校 ○保護者・地域の方々と連携し、地域社会の核の一つとなるみんなで育てる学校	地域・保護者の願い ○確かな学力の維持向上 ○話す力、聞く力の向上
道德教育の重点 ○学校の教育活動全体を通じて道德的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道德性を養う。	本校における「確かな学力」 ○自分で考える力 ・自ら課題をもつ ・工夫して解決する 等 ○共に学び合う力 ・友達との話し合い ・地域の方との関わり ○基礎的知識 ・読んで得た知識 ・聞いて得た知識 ・体験して身に付けた知識	特別活動の重点 ○明るく豊かな人間関係で結ばれた集団づくりを目指す。 ○自らの生活を向上させようとする態度を育てる。 ○児童自らが計画を立て、実践し、新たな目標に立ち向かう意欲を育てる。
総合的な学習の時間の重点 ○児童が自分で課題を見付けられるようにする。 ○児童が多様な方法の中から課題解決の方法を自ら選択して追究できるようにする。 ○児童が自信をもって、学習したことを発表できるようにする。	各教科の指導の重点 国語：伝え合う力、思考力、想像力、言語感覚を養う。 社会：我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てる。 算数：数量や図形についての算数的活動を通して、見通しをもち、筋道を立てて考える能力を育てる。 理科：自然に親しむ観察や実験を通して、問題解決の能力、自然を愛する心情を育てる。 生活：具体的な活動や体験を通して自立への基礎を養う。 音楽：表現および鑑賞の活動を通して、音楽を愛する心情と感性を養う。 図画工作：表現および鑑賞の活動を通して、造形的な創造活動の基礎を育てる。 家庭：実践的・体験的な活動を通して日常生活に必要な知識と技能を育てる。 体育：適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して運動に親しむ資質や能力を育てる。	生活指導 ○集団としての自覚を高め、互いに協力する中で、個性の伸長を図る。 ○基本的行動様式を理解し、自ら実践する児童を育てる。
	外国語：英語による言語活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	キャリア教育 ○将来の夢や希望に向かって諦めずに努力する意欲や態度を身に付けさせる。

授業改善に向けた視点と主な方策

教育課程編成上の工夫 ○算数の学習における習熟度別指導を中心とした複線型問題解決学習を推進する。 ○モジュール学習としての「すくすくタイム」を活用した「読む、書く、計算」の学力の定着・向上を図る。 ○白石農園で年間を通して野菜を育てるなどの体験学習を推進する。 ○ＩＣＴ機器を継続的に活用した学習の推進、デジタル資料の整理、蓄積を行う。	指導内容・指導方法の工夫 1年生 聞く・話すなどの学習の基礎基本を繰り返し指導する。興味や関心が高まる学習材の工夫開発をする。 2年生 「読む・書く・計算」の学習に自主的に取り組ませる。互いに学び合う姿勢を養う。 3年生 「読む・書く・計算」の学習に継続的に取り組ませる。自然に親しむ活動、自らの課題解決の学習、友達との伝え合い・学び合いの学習を重視する。 4年生 話を聞き、内容を理解する活動を重視する。児童が自ら考え、相手と分かり合う意識を高める。 5年生 自主的・自発的な学習の習慣付けを図る。「めあてをもつ→調べる・まとめる→発表する→振り返る」の一連の学習課程の定着を図る。 6年生 課題解決学習により、児童に達成感を味わわせる。話し合いやスピーチなどの活動を通して表現力を育てる。 音楽科 音楽に対する興味・関心を育てる。基礎的な技能や知識を身に付けさせて、個性を生かすようにする。 図工科 意欲的に制作活動ができるような題材を工夫する。作業の方法は分かりやすく示す。制作はグループでの教え合いを取り入れて、個性を認め合うようにする。	評価活動の工夫 ○評価計画を立て、具体的な事例を基に、「児童の変容した姿」で教育活動の評価を行う。 ○児童が「めあて→実践→振り返り」という自己評価をできる力を育てる。 ○教職員はPlan→Do→Check→Actionのサイクルを確立し、成果のある教育を行う。
校内における研究や研修の工夫 ○自己研鑽と校長・副校長による面接・授業参観によって、計画性をもち、個性を生かす学級経営を進める。 ○児童の実態から、国語科において語彙力を伸ばし、文章を正しく読み取る読解力の向上を目指し、授業研究を中心にして実践を積み重ねる。 ○区教育会、区教育委員会、都研修センター等の実施する研修に参加し、教育活動についての研究に努め、教職の専門性と実践力を磨く。	家庭や地域社会との連携の工夫 ○学校の教育活動は常に保護者や地域に公開し、参観できるようにする。 ○行事等の折にアンケートによる外部評価を取り入れる。また、2学期には教育活動全般にわたる外部者による評価を行って次年度の教育課程に生かす。 ○学校評議委員会を年3回開き、本校の教育活動について協議を進め、意見を学校経営に生かす。	小中一貫教育の視点 ○児童・生徒の心身の変化や個々の発達に応じた指導の在り方など、指導の連携を図る。 ○教科により、乗り入れ指導を実施することで小学校と中学校のスムーズな接続を図る。 ○小・中のカリキュラムのつながりを意識した課題改善カリキュラムを基に、基礎的な学力の向上を図る。 ○問題解決的な授業を展開することで、児童が自ら課題を設定し、主体的に学習を進めることができる力を伸ばす。 ○他者とのコミュニケーションを円滑に行なえるスキルを身に付け、他者を理解し、互いに高め合えるような心情を育てる。 ○八坂中学校との合同研究では、全校での協力体制を確立し、指導法の開発や工夫改善を図る。